

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600450
法人名	有限会社グループホームあまご
事業所名	グループホームあまご
所在地	愛媛県喜多郡内子町只海甲855-15
自己評価作成日	平成 27 年 1 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者のペースに合わせてそのご家族様と職員が一緒になって楽しく暮らす大家族である。そのために「一人ぼっちにしない」「いつも笑顔で語り合う」「楽しく遊ぶ」「楽しくお手伝いする」「ごちそうを食べる」「対象の変化を尋ねる」を心がけ個々の満足度を考えながら今の能力に応じた暮らしが出来るよう支援。また、個々の能力が維持できるように支援する。
健康管理、体調の変化への対応は主治医宅が隣接しており、すぐに診て貰える。また、訪問看護ステーションとの連携で24時間対応が可能。軽度の肺炎や脱水の場合は入院せずホーム内での治療が出来たり、終末期の対応はご家族様と相談しながら看取りまで行うことができます。
地域と交流する機会に恵まれ、お祭り等の行事に参加させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の中心部から車で約10分の場所に位置する事業所は、山や川に囲まれた自然豊かな環境の中にある。代表者と管理者は事業所のすぐ近くに住み地区の世話役を務めており、地元に住む職員も多いため、地域住民と顔馴染みの関係で日常的に交流している。代表者は、月1回自宅を開放して社協のいきいきサロンを開催する協力もしており、利用者も一緒に参加するなど地域住民との交流も盛んで、地域からの信頼は厚い。また、医師である代表者と訪問看護ステーションとの24時間体制での医療連携が取れており、利用者や家族には安心感がある。利用者や家族からは最期まで事業所で暮らしたいという希望が多く、事業所もその要望に応えるべく努めている。面会に来た家族が、他の利用者と交流するなど、事業所全体が一つの家族のような雰囲気で生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあまご

(ユニット名) どじょっこ

記入者(管理者)

氏 名 藤澤 邦哉

評価完了日 27 年 1 月 9 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念の共有ができています。ホームの運営やサービスにおいて問題が起きてもこの理念を判断の基本とし日々実践できている。	
			(外部評価) 代表者と職員と一緒に検討して作成した開設当初の理念を継続している。理念は玄関や事務所、各ユニットのリビングなど事業所内の各所に掲示している。支援方法等に迷うことがあれば理念に立ち返り、判断の基準にしている。さらに、毎月ユニット毎に職員間で相談して目標を作成し、分かりやすいよう工夫して掲示している。利用者の状態は日々変化しているため、その月の状態に合わせた目標を定めて実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩や地域の行事、運営推進会議や生き生きサロン、ホームでの避難訓練などを通して、地域の方と接する機会をたくさん持っている。運営者や職員は、自治会や自治区の役員をしている。	
			(外部評価) 代表者と管理者、数名の職員は事業所の近所に住んでおり地域住民と顔馴染みの関係ができています。代表者は地区の役員を務め、月1回自宅を開放して社協の生き生きサロンを開催する協力もしており、利用者も参加するなど地域住民との交流も盛んである。利用者が事業所周辺を散歩する際には、近隣住民からあいさつや声かけをしてもらったり、通りがかりの住民と利用者が窓越しに会話をしたりするなど、事業所が地域に馴染んでいる様子を伺うことができる。利用者や職員の同世代の地域住民とは、お互いに気持ちが分かり合える様子である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 花火大会や地域の方と合同での家族会などを通し利用者と触れ合う機会を持ち認知症に対する理解を深めてもらっている。事業者、職員と地域の方と一緒に認知症の講演会を聴く機会がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、様々な意見を頂いていてサービスの向上 に役だっている。例えば、終末期の対応やホームの利用状 況、内子町のサービスの利用状況について話し合う機会をつ くっている。避難訓練を見ていただいたり一緒に行うことで 災害や安全対策についての意見を頂いている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地域に7つある地区の区長な ど、多く参加者が得られている。管理者は会議を敷居の低い ものにしたいと考えており、気軽に参加してもらい意見を言 える会議にしていきたいという思いで取り組んでいる。会議 では、防災対策や地域の街灯、ガードレールの設置など地域 の困りごとについても様々な意見が出され、出された意見は 地域と話し合いながら改善に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や避難訓練に参加していただいている。細かい 情報までメールや郵便などで知らせていただいている助かっ ている。	
			(外部評価) 町担当者も事業所のある地域住民で、日常的に交流をしてい る。頻繁に連絡を取ることで新しい情報等を教えてもらったり 、提出書類等の確認をしてもらっている。また、地域包括 支援センターからの相談もあり、山間部で孤立していた住民 の対応などで協力することもある。町内にグループホームが 7か所あり、それらの事業所で協議会を作り、合同でイベン トなども開催している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ホーム内で身体拘束についての勉強会を行っている。ホーム 内には、身体拘束廃止マニュアルを掲示している。玄関の施 錠は、夜の7時以降のみ、利用者は、いつでも外に出ること が可能である。	
			(外部評価) 身体拘束防止等のマニュアルを作成し、年1回必ず身体拘束 や虐待をテーマに職員研修を実施し、日頃から利用者の行動 を抑制しないケアを心がけている。新人職員には管理者が個 別に指導している。玄関の開閉時にはチャイムが鳴る構造 で、日中は施錠しておらず、利用者は自由に入出入りするこ とができる。また、ユニット間の通路も自由に行き来ができ、 隣のユニットへ行って気分転換をする利用者もいる。以前、 多動のため外傷の危険のある利用者がいたが、机や柱に緩衝 材を貼り付けるなど、利用者が安全に自由に動けるよう対応 をした事例もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で虐待について学ぶ機会を持ち、一人ひとりの人権やプライド、生きてきた証を損ねることや不適切なケアがなされることがないように取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する勉強会を毎年してきたが、ホーム内ではもちろん、内子町自体で制度の活用実績が乏しく今の時点では制度の理解がサービスの向上に繋がる状況ではないと考え今年は学ぶ機会を持っていない。活発に利用されるようになれば改めて学ぶ機会を持ちたいと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用契約は必ず説明を行っている。改定時は、直接会うことがあればその時に説明を行っている。書面にて改定の同意を必ず頂くようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営に関して、利用者自身が意見や要望を訴えることが難しいがあれば対応を行っていきたい。担当者会議や面会時に、家族様へ意見や要望を伺うようにしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見や要望を運営に取り入れるため、面会簿に自由記入欄を設け、気軽に記入できるよう工夫している。どの利用者も月1回以上は家族の面会があり、その際に要望を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。家族から「利用者に掃除をさせてください」という意見が出され、見守りながら一緒にするなどの対応をしている。日頃からたくさん会話をすることで、職員と家族との良好な信頼関係を築けるよう努めている。県外の家族にも電話や手紙で利用者の様子を伝え、意見を言ってもらいやすいようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営会議を開くこともあるが、月に1回のカンファレンスや運営者が日常的にホーム内に居て、運営に関しての建設的な意見を聴く機会がある。ホームの隣にある休憩所は、意見を反映させたものである。 (外部評価) 月1回のカンファレンスには、代表者でもある施設長、理事、利用者家族、契約している訪問看護ステーションスタッフも参加して意見を出し合っている。できるだけ多くの職員が参加できるよう夜間帯に開催している。カンファレンスでは月間目標を見直すこともある。また、日常的に理事や管理者、事務職員が事業所内にいることで、ちょっとしたことでも相談しやすい環境づくりをしている。また、行事は職員間で話し合って決め、備蓄品の購入などの用意も職員に任されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 運営会議を開くこともあるが、運営者が日常的にホーム内に居て、運営に関しての建設的な意見を聴く機会がある。ホームの隣にある休憩所は、意見を反映させたものである。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者と管理者は、ケアの現場にすることが多く、職員の力量の把握や、サービスの指導を日常的に行っている。施設内で毎月研修を行っている。内容によっては、専門職に来て頂いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 内子町には、グループホーム連絡会というのがあり、月に1回は、管理者同士で交流が持てている。また、連絡会主催の運動会や講演会、勉強会を通じて職員間の交流も図れている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 不安を取り除くことが、信頼関係作りには一番大事だと考え、ホームの見学の時や事前調査時にご本人の困っていることや希望を伺っている。出来るだけ多く情報を集め分析して、入所前からご本人の希望や不安を把握できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安を取り除くことが、信頼関係作りには一番大事だと考え、ホームの見学の時や事前調査時にご家族の困っていることや希望を伺っている。出来るだけ多く情報を集め分析して、入所前からご家族の希望や不安を把握できるよう努めている。入所直後も、連絡を取り、ご本人の暮らしぶりの報告を行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 見学时や入所前の聞き取り、入所前に使っていたサービスの事業者からの情報提供等で、今、必要なサービスを把握している。訪問看護や訪問リハビリ、マッサージなど他のサービスの利用を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人の能力を見極め、みんなのために何か出来ないか考え、役割や役目を持ち支え合い認め合う生活が出来るよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームでの生活は、ご家族様の支援も必要だと訴え、ご家族様にも出来る支援を依頼している。面会の少ない方には、面会の依頼を行ったり、美容院や配偶者への面会など特殊な外出に対して協力して頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 情報を集めご本人の馴染みの場所や人の把握に努めている。ご本人の希望を伺って行きたい場所への外出支援を行ったり、馴染みの人や場所に関しての話をしたりしている。 (外部評価) 利用者から「馴染みの店に買い物に行きたい」などの希望があった場合には、できる限りその日のうちに出かけられるよう努めている。「自宅の様子を見に行きたい」との希望も多く、数名の利用者が車に同乗し、順番にそれぞれの自宅周辺をドライブすることもある。利用者自身から要望が出されることが少なくなってきたため、入居時のアセスメントや家族から情報を聞き取り、利用者との日常的な会話の中から馴染みの場所や関係を把握するよう努めている。家族と一緒に馴染みの美容室に行ったり、外食をしたりする利用者も多い。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は、利用者同士が良い関係を築くための潤滑油になろうと努めているが、心身の状況や入所期間の長短などいろいろな問題があり利用者同士が関わり合い支え合えていない場面がある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族様とは、同じ地域で暮らしていることが多いのでホーム以外の場所で会うことがあり、その時にご本人の暮らしぶりを伺ったり、いつでも相談して下さいと声をかけている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の介護の中でコミュニケーションを多く持ち、発言や表情等から今の思いや今後への思いや意向、ご本人が一番大切にしている事の把握に努めている。言語での把握が困難な場合でもご本人の行動で把握するよう努めている。ご本人の思いに沿ったサービス計画を作っている。	
			(外部評価) 職員はゆっくりと時間をかけて利用者の話を聞き、可能な範囲で思いや希望が叶えられるよう心がけて支援している。会話によるコミュニケーションが難しい利用者には日頃からよく観察することで、一人ひとりの思いや希望を把握できるよう努めている。利用者にとって、一つひとつの希望が叶えられることにより気分よく生活できることにも繋がり、職員はそうすることで落ち着いた生活が送れるようになるという思いで支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前、入所後も、家族様やご本人から昔の暮らしぶりを伺うことに努め、ホーム内でのサービス計画に取り入れるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 画一的な介護をするのではなく個々の能力や、希望の暮らし方、その日、その時の気持ちを把握して個々に対応したサービス計画を作り実践している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日、ご本人に関する介護記録をつけている。3カ月に一度はケアカンファレンスを行い職員やご家族、関係機関と情報を共有し、よりご本人の希望に沿った暮らしや安心安全の暮らしへの課題や意見を述べ合う機会を持っている。状態の変化がある場合は、御家族やご本人と相談して柔軟に対応している。 (外部評価) 利用者毎の担当職員がモニタリングシートを作成し、月1回のカンファレンス開催時に、前もって職員全員に利用者全員のモニタリングシートを記入してもらい、意見が反映されるようにしている。サービス担当者会議には半数程度の家族が出席し、家族の意向が反映された介護計画を作成している。管理者はサービス担当者会議に家族が参加することで、事業所で行っているケアの内容を知ってもらおうと共に、サービスの質の向上に繋げていきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の実践や結果やその時にケアに当たった職員による気づきなどを個々に記録を行い、職員が共有できるようにしている。大切なことは、申し送りノートケアの変更の周知に役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけ病院や施設には行かなくて済むようホーム内で、訪問看護や訪問リハビリ、マッサージなどのサービスが受けられるよう支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 当ホームは、自然豊かな地に立地しており名所もあり、四季折々の豊かな景色を楽しめる。農作物の成長を見たり、地域に8ヶ所や33カ所参りのお堂があるのでお参りをすることや、歌や演奏踊りのボランティアを楽しみにされている方も居る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 契約時に、ご本人とご家族の意向を伺うようにしている。施 設長が、医師なのでかかりつけ医になる事が多い。変更の場 合は、医療情報の提供を必ず受けて引き続き適切な医療が受 けられるように支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望により、入居前からのかかりつけ医に、 家族の協力を得て通院できるよう支援している。また、協力 医をかかりつけ医としている利用者もいる。協力医は代表者 であるためは1日に1～2回事業所を訪れ、利用者の体調を 確認したり、利用者と一緒にレクリエーションを楽しんだり している。契約している訪問看護ステーションの看護師もほ ぼ毎日訪問しており、体調管理に気を配っている。他科受診 が必要な場合には、協力医が診察を行なったうえで速やかに 紹介し、専門科を受診できるよう手配している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ご本人、ご家族の同意を元に、各自が必要な看護をすぐに受 けられるように訪問看護ステーションと契約している。月に 1回は、健康チェックを受けているが頻繁に訪問看護師が来 るので、咳があったり食欲のことや皮膚の状態のことなど、 ちょっとしたことでもすぐに看護師に相談をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、ホームでの暮らしぶりなどの情報や医療情報の提 供を必ず行っている。お見舞いや家族様への連絡などで情報 の把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所の契約時に必ず当ホームの指針の説明やこれまでの事例 などを話し重度化や終末期対応の意識や希望を伺うようにし ている。ホームでのターミナルケアありきでなく色々な道が あることを伝えている。	
			(外部評価) 「看取り介護についての対応指針」を作成し、入居時に利用 者や家族に説明している。事業所での看取りを希望されてい ても最終的には入院や帰宅に繋がる利用者もあり、段階に応 じて途中で意向を変更できる旨も必ず伝えている。これまで 事業所で数多くの看取りを経験している。管理者は職員に対 し、「最期を迎える時ではなく、それまでのケアが大切であ る」と伝えている。終末期を迎えた利用者がある場合でも、 職員が安心して他の利用者の介護ができるよう、代表者や管 理者が協力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 対応のマニュアルがホーム内に掲示されている。ホーム内で意識レベルや症状別の初期対応の勉強会を行い急変や事故発生時に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害別の対応マニュアルを掲示している。避難訓練も行っている。近隣住民との話し合いを行い、いざという時の協力体制が出来ている。勉強会において、災害に対する意識付けを行い心構えなどを各職員は学んでいる。 (外部評価) 年2回、地域住民と合同で避難訓練を実施している。訓練では実際に利用者と一緒に地域の小学校の体育館へ避難したことがあったが、その際に段差が多いなどの課題が見つかり、さっそくスロープを設置してもらうなど対応をしてもらっている。防火デーには、消防団と一緒に訓練をしている。また、土砂崩れ等により道路が寸断され地域が孤立する可能性もあるため、水や食料などの備蓄品を用意している。火災に加え、行政では原発事故の対策も検討中で、今後協力していく予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 重度の利用者様が多く会話による意思確認が難しいが、必ず声をかけながら排泄などのプライバシーに関わる介助を行っている。一人ひとりの性格や思いや誇りにしていることを把握して、それを大切にしながら一人ひとりに合わせた言葉かけをしている。 (外部評価) 職員は「利用者に恥ずかしい思いをさせない」ということを常に念頭において支援するよう努めている。声かけの内容はもちろんのこと、声の大きさにも配慮するよう心がけている。排泄や入浴の介助時には、必要以上に扉を開けたままにしない、見守りを最小限にとどめるなどの注意を払い、工夫した支援ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 表出が困難な場合は、利用者様の表情や仕草で読み取ったり、選択肢のある問いかけを行ったりして利用者様の状態に合わせ、その時その時の希望や思いを表出して自己決定ができる場面の支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各利用者様に対して日課計画はあるが、先ずは何よりも、その時その時の気持ちや思いを優先して、利用者様が自分のペースで暮せれるよう支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 一緒に服を選んだり、汚れていたらプライドを傷つけないように声をかけ更衣を促したり、利用者様に替わって衣類の準備をご家族様へ依頼したりしている。行きつけの美容院へや資格者の協力でホーム内でのカットの支援をしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 重度の方が多く困難であるが、下膳や台拭きなど、ちょっとしたでも出来ることがあれば依頼したり一緒に行っている。箸が使えなかったり大きな器が持てなかったりなど利用者様の状態を把握して合わせた食事提供を行っている。毎日、料理の出来に関してコメントをされる方もいる。誕生日には誕生者の希望の献立にしている。 (外部評価) 職員が1週間分のメニューを決め、ユニット毎に職員が調理している。店舗が遠いため食材を配達してもらっているが、時々買い物や精米に利用者と一緒に出かけることもある。入職時には不慣れだった男性職員も徐々に調理に慣れはじめ、現在は職員全員が順番にオープンキッチンで、利用者の様子を確認しながら調理をしている。利用者には下ごしらえ等のできることを手伝ってもらえるようお願いしている。利用者の好みの味付けを聞いたり、誕生日には食べたいものを提供したりするなど、会話を楽しみながら食事が楽しみになる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分摂取量は毎日把握している。栄養状態は、定期的に検査しており把握できている。栄養補助の飲み物を利用して一人ひとりが無理なく栄養と水分が確保できるように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの能力に応じ、毎食後は、口腔内の清潔への支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの能力を把握してどのような介助が必要なのか一人ひとりに合わせた排泄介助を行っている。トイレでの排泄が続けられるように立位維持のためのリハビリを行っている。 (外部評価) 常時オムツを使用している利用者や紙パンツの利用者など様々であるが、どの利用者に対してもよく観察して、タイミングを見計らって声かけをしている。立位の取れる利用者には、トイレでの排泄支援をしており、利用者に合わせて、手すりの高さなどを調整する工夫をしている。利用者にトイレの場所が分かりやすいよう、「トイレ、便所」の表示をしている。利用者の意向で、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいるが、自力で排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘が及ぼす身体的精神的な影響を理解し、気持ちよく排便をするために便を軟らかくする薬や冷たい牛乳や繊維の多い食べ物などを提供している。個々に排便の記録が付けられており状況が把握できている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) いつでもお湯がためれる状態にして毎日でもお風呂に入りたい希望のある利用者様には対応できるようにしている。入浴前には、バイタルの測定を行い、浴室や脱衣所の温度調節、個々の好みの湯加減にして気持ちよく安全に入浴できるように支援を行っている。 (外部評価) 個別浴槽にリフトを設置し、利用者の状態に合わせて2人体制で介助をするなど、安心安全に入浴できるよう支援している。利用者の希望に応じて、毎日入浴することも可能である。冬場など寒いため入浴を拒否される利用者には無理強いせず、声かけを工夫したり入浴できない場合には清拭等を行い清潔保持に努めている。浴室は車いすのまま出入りできるよう扉を外したり、脱衣場にはエアコンを取り付け、浴室と温度差を感じないような工夫をしている。のんびりと穏やかな気分になれるよう、基本的には職員と1対1で会話を楽しみながら入浴できるよう心がけている。男性職員が数名いるが、希望者には同性介助をするよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活習慣やその日の気分に合わせて利用者様は休息がとれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者様の薬は、担当者が個別に分包して管理している。投薬管理表にて処方された薬の記録を行っている。変更があれば、申し送りノートに記録している。症状について疑問があれば主治医に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 職員間で個々の能力に合わせた役割を考えたり利用者様の希望に沿った役割をお願いしている。押しつけの役割ではなくあくまでも意欲的に取り組めるように支援している。しりとりやことわざカルタ、サイコロ振りなど簡単で楽しめるゲームを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候のよい日は、努めて散歩に出るようにしている。散歩では、地域の方に花や農作物を貰うこともある。長い方は、20分ほど出る方もいる。要望にすぐ対応して買い物や兄弟の家や馴染の場所に行ける支援を行っている。息子さんがきて、別の施設にいる奥様の所へ面会に行く方もいる。 (外部評価) 天候が良ければほぼ毎日、事業所周辺を散歩している。歩行できる利用者や車いすを使用する利用者など状況は様々であるが、職員と1対1で会話を楽しみながら散歩する習慣になっている。利用者の希望に応じて、名所となっている棚田の風景や季節の花を見に行けるよう支援している。また、買い物や玄米を精米に行く際には利用者と一緒に出かけるなど、外出する機会を日常的に作り出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて金額の差はあるがお金を自分で持っている方もあり、お賽銭や買い物で使っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の訴えがあれば掛けて取り次いだり、家族様への伝言をことづかったりして支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 温度や湿度、光の調節、テレビの音、匂いなどへの注意、花や季節を意識した装飾などで気持ちよく過ごせれるよう配慮している。また、手すりやドアノブなどの消毒をしたり不必要な不安や危険を招く障害物を除去して安全で安心に暮せれる環境に配慮している。 (外部評価) 事業所内は日当たりがよく、天窓からの光も差し込む開放的な空間になっており、利用者はリビングやダイニング、ソファコーナーなど思い思いの場所で過ごすことができる。利用者の家族に大工の方がおられ、建具の調整や網戸の取り付けなどの環境整備を依頼することが多い。室内に洗濯物が干せるようなスペースを新しく作るなど、快適に過ごすために日々工夫している。また、感染症予防のため、一日6回手すりやドアノブの消毒をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者様それぞれに好みの場所でテレビを見たりゲームをしたり居眠りをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時は、ベットとタンスのみで後は、自由に馴染みのものが持ち込みできるようにしている。布団やマッサージ機、パリカン、えもん掛け、時計など生活道具を自宅から持ち込まれている。 (外部評価) 居室はベッドとチェスト、エアコンが備え付けとなっているほか、利用者は馴染みの家具等を持ち込むことができる。事業所側で用意しているが、最近は布団を持ち込む利用者が増えている。季節毎の衣替えは、基本的に面会時等に家族に依頼しているが、必要があれば事業所の倉庫で預かることも可能である。利用者の多くは、家族やペットの写真を飾っているほか、毎年誕生日に職員から送られる寄せ書きを壁に貼っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下やトイレに手すりを設置してホーム内に段差をなくしバリアフリーにしている。センター方式D1, 2（改良型）を活用して細かく分析しどの介助が必要なのか把握して能力を維持できるよう支援している。出来そうなことに関しては、利用者様の意向に沿って一緒に積極的に挑戦している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873600450
法人名	有限会社 グループホームあまご
事業所名	グループホームあまご
所在地	愛媛県喜多郡内子町只海甲855-15
自己評価作成日	平成 27 年 1 月 9 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者のペースに合わせてそのご家族様と職員が一緒になって楽しく暮らす大家族である。そのために「一人ぼっちにしない」「いつも笑顔で語り合う」「楽しく遊ぶ」「楽しくお手伝いする」「ごちそうを食べる」「対象の変化を尋ねる」を心がけ個々の満足度を考えながら今の能力に応じた暮らしが出来るよう支援。また、個々の能力が維持できるように支援する。
健康管理、体調の変化への対応は主治医宅が隣接しており、すぐに診て貰える。また、訪問看護ステーションとの連携で24時間対応が可能。軽度の肺炎や脱水の場合は入院せずホーム内での治療が出来たり、終末期の対応はご家族様と相談しながら看取りまで行うことができます。
地域と交流する機会に恵まれ、お祭り等の行事に参加させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

町の中心部から車で約10分の場所に位置する事業所は、山や川に囲まれた自然豊かな環境の中にある。代表者と管理者は事業所のすぐ近くに住み地区の世話役を務めており、地元に住む職員も多いため、地域住民と顔馴染みの関係で日常的に交流している。代表者は、月1回自宅を開放して社協のいきいきサロンを開催する協力もしており、利用者も一緒に参加するなど地域住民との交流も盛んで、地域からの信頼は厚い。また、医師である代表者と訪問看護ステーションとの24時間体制での医療連携が取れており、利用者や家族には安心感がある。利用者や家族からは最期まで事業所で暮らしたいという希望が多く、事業所もその要望に応えるべく努めている。面会に来た家族が、他の利用者と交流するなど、事業所全体が一つの家族のような雰囲気生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあまご

(ユニット名) ふなっこ

記入者(管理者)

氏 名 藤澤 邦哉

評価完了日 27 年 1 月 9 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念の共有ができています。ホームの運営やサービスにおいて問題が起きてもこの理念を判断の基本とし日々実践できている。	
			(外部評価) 代表者と職員と一緒に検討して作成した開設当初の理念を継続している。理念は玄関や事務所、各ユニットのリビングなど事業所内の各所に掲示している。支援方法等に迷うことがあれば理念に立ち返り、判断の基準にしている。さらに、毎月ユニット毎に職員間で相談して目標を作成し、分かりやすいよう工夫して掲示している。利用者の状態は日々変化しているため、その月の状態に合わせた目標を定めて実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩や地域の行事、運営推進会議や生き生きサロン、ホームでの避難訓練などを通して、地域の方と接する機会をたくさん持てている。運営者や職員は、自治会や自治区の役員をしている。	
			(外部評価) 代表者と管理者、数名の職員は事業所の近所に住んでおり地域住民と顔馴染みの関係ができています。代表者は地区の役員を務め、月1回自宅を開放して社協の生き生きサロンを開催する協力もしており、利用者も参加するなど地域住民との交流も盛んである。利用者が事業所周辺を散歩する際には、近隣住民からあいさつや声かけをしてもらったり、通りがかりの住民と利用者が窓越しに会話をしたりするなど、事業所が地域に馴染んでいる様子を伺うことができる。利用者や職員の同世代の地域住民とは、お互いに気持ちが分かり合える様子である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 花火大会や地域の方と合同での家族会などを通し利用者と触れ合う機会を持ち認知症に対する理解を深めてもらっている。事業者、職員と地域の方と一緒に認知症の講演会を聴く機会がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、様々な意見を頂いていてサービスの向上 に役だっている。例えば、終末期の対応やホームの利用状 況、内子町のサービスの利用状況について話し合う機会をつ くっている。避難訓練を見ていただいたり一緒に行うことで 災害や安全対策についての意見を頂いている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地域に7つある地区の区長な ど、多く参加者が得られている。管理者は会議を敷居の低い ものにしたいと考えており、気軽に参加してもらい意見を言 える会議にしていきたいという思いで取り組んでいる。会議 では、防災対策や地域の街灯、ガードレールの設置など地域 の困りごとについても様々な意見が出され、出された意見は 地域と話し合いながら改善に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や避難訓練に参加していただいている。細かい 情報までメールや郵便などで知らせていただいている助かっ ている。	
			(外部評価) 町担当者も事業所のある地域住民で、日常的に交流をしてい る。頻繁に連絡を取ることで新しい情報等を教えてもらったり 、提出書類等の確認をしてもらっている。また、地域包括 支援センターからの相談もあり、山間部で孤立していた住民 の対応などで協力することもある。町内にグループホームが 7か所あり、それらの事業所で協議会を作り、合同でイベン トなども開催している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ホーム内で身体拘束についての勉強会を行っている。ホーム 内には、身体拘束廃止マニュアルを掲示している。玄関の施 錠は、夜の7時以降のみ、利用者は、いつでも外に出ること が可能である。	
			(外部評価) 身体拘束防止等のマニュアルを作成し、年1回必ず身体拘束 や虐待をテーマに職員研修を実施し、日頃から利用者の行動 を抑制しないケアを心がけている。新人職員には管理者が個 別に指導している。玄関の開閉時にはチャイムが鳴る構造 で、日中は施錠しておらず、利用者は自由に出入りすること ができる。また、ユニット間の通路も自由に行き来ができ、 隣のユニットへ行って気分転換をする利用者もいる。以前、 多動のため外傷の危険のある利用者がいたが、机や柱に緩衝 材を貼り付けるなど、利用者が安全に自由に動けるよう対応 をした事例もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で虐待について学ぶ機会を持ち、一人ひとりの人権やプライド、生きてきた証を損ねることや不適切なケアがなされることがないように取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する勉強会を毎年してきたが、ホーム内ではもちろん、内子町自体で制度の活用実績が乏しく今の時点では制度の理解がサービスの向上に繋がる状況ではないと考え今年は学ぶ機会を持っていない。活発に利用されるようになれば改めて学ぶ機会を持ちたいと考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用契約は必ず説明を行っている。改定時は、直接会うことがあればその時に説明を行っている。書面にて改定の同意を必ず頂くようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営に関して、利用者自身が意見や要望を訴えることが難しいがあれば対応を行っていきたい。担当者会議や面会時に、家族様へ意見や要望を伺うようにしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見や要望を運営に取り入れるため、面会簿に自由記入欄を設け、気軽に記入できるよう工夫している。どの利用者も月1回以上は家族の面会があり、その際に要望を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。家族から「利用者に掃除をさせてください」という意見が出され、見守りながら一緒にするなどの対応をしている。日頃からたくさん会話をすることで、職員と家族との良好な信頼関係を築けるよう努めている。県外の家族にも電話や手紙で利用者の様子を伝え、意見を言ってもらいやすいようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営会議を開くこともあるが、月に1回のカンファレンスや運営者が日常的にホーム内に居て、運営に関しての建設的な意見を聴く機会がある。ホームの隣にある休憩所は、意見を反映させたものである。 (外部評価) 月1回のカンファレンスには、代表者でもある施設長、理事、利用者家族、契約している訪問看護ステーションスタッフも参加して意見を出し合っている。できるだけ多くの職員が参加できるよう夜間帯に開催している。カンファレンスでは月間目標を見直すこともある。また、日常的に理事や管理者、事務職員が事業所内にいることで、ちょっとしたことでも相談しやすい環境づくりをしている。また、行事は職員間で話し合って決め、備蓄品の購入などの用意も職員に任されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 運営会議を開くこともあるが、運営者が日常的にホーム内に居て、運営に関しての建設的な意見を聴く機会がある。ホームの隣にある休憩所は、意見を反映させたものである。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者と管理者は、ケアの現場にすることが多く、職員の力量の把握や、サービスの指導を日常的に行っている。施設内で毎月研修を行っている。内容によっては、専門職に来て頂いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 内子町には、グループホーム連絡会というのがあり、月に1回は、管理者同士で交流が持てている。また、連絡会主催の運動会や講演会、勉強会を通じて職員間の交流も図れている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 不安を取り除くことが、信頼関係作りには一番大事だと考え、ホームの見学の時や事前調査時にご本人の困っていることや希望を伺っている。出来るだけ多く情報を集め分析して、入所前からご本人の希望や不安を把握できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安を取り除くことが、信頼関係作りには一番大事だと考え、ホームの見学の時や事前調査時にご家族の困っていることや希望を伺っている。出来るだけ多く情報を集め分析して、入所前からご家族の希望や不安を把握できるよう努めている。入所直後も、連絡を取り、ご本人の暮らしぶりの報告を行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 見学時や入所前の聞き取り、入所前に使っていたサービスの事業者からの情報提供等で、今、必要なサービスを把握している。訪問看護や訪問リハビリ、マッサージなど他のサービスの利用を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人の能力を見極め、みんなのために何か出来ないか考え、役割や役目を持ち支え合い認め合う生活が出来るよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームでの生活は、ご家族様の支援も必要だと訴え、ご家族様にも出来る支援を依頼している。面会の少ない方には、面会の依頼を行ったり、美容院や配偶者への面会など特殊な外出に対して協力して頂いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 情報を集めご本人の馴染みの場所や人の把握に努めている。ご本人の希望を伺って行きたい場所への外出支援を行ったり、馴染みの人や場所に関しての話をしたりしている。 (外部評価) 利用者から「馴染みの店に買い物に行きたい」などの希望があった場合には、できる限りその日のうちに出かけられるよう努めている。「自宅の様子を見に行きたい」との希望も多く、数名の利用者が車に同乗し、順番にそれぞれの自宅周辺をドライブすることもある。利用者自身から要望が出されることが少なくなっているため、入居時のアセスメントや家族から情報を聞き取り、利用者との日常的な会話の中から馴染みの場所や関係を把握するよう努めている。家族と一緒に馴染みの美容室に行ったり、外食をしたりする利用者も多い。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員は、利用者同士が良い関係を築くための潤滑油になろうと努めているが、心身の状況や入所期間の長短などいろいろな問題があり利用者同士が関わり合い支え合えていない場面がある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族様とは、同じ地域で暮らしていることが多いのでホーム以外の場所で会うことがあり、その時にご本人の暮らしぶりを伺ったり、いつでも相談して下さいと声をかけている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の介護の中でコミュニケーションを多く持ち、発言や表情等から今の思いや今後への思いや意向、ご本人が一番大切にしている事の把握に努めている。言語での把握が困難な場合でもご本人の行動で把握するよう努めている。ご本人の思いに沿ったサービス計画を作っている。	
			(外部評価) 職員はゆっくりと時間をかけて利用者の話を聞き、可能な範囲で思いや希望が叶えられるよう心がけて支援している。会話によるコミュニケーションが難しい利用者には日頃からよく観察することで、一人ひとりの思いや希望を把握できるよう努めている。利用者にとって、一つひとつの希望が叶えられることにより気分よく生活できることにも繋がり、職員はそうすることで落ち着いた生活が送れるようになるという思いで支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前、入所後も、家族様やご本人から昔の暮らしぶりを伺うことに努め、ホーム内でのサービス計画に取り入れるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 画一的な介護をするのではなく個々の能力や、希望の暮らし方、その日、その時の気持ちを把握して個々に対応したサービス計画を作り実践している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日、ご本人に関する介護記録をつけている。3カ月に一度はケアカンファレンスを行い職員やご家族、関係機関と情報を共有し、よりご本人の希望に沿った暮らしや安心安全の暮らしへの課題や意見を述べ合う機会を持っている。状態の変化がある場合は、御家族やご本人と相談して柔軟に対応している。 (外部評価) 利用者毎の担当職員がモニタリングシートを作成し、月1回のカンファレンス開催時に、前もって職員全員に利用者全員のモニタリングシートを記入してもらい、意見が反映されるようにしている。サービス担当者会議には半数程度の家族が出席し、家族の意向が反映された介護計画を作成している。管理者はサービス担当者会議に家族が参加することで、事業所で行っているケアの内容を知ってもらおうと共に、サービスの質の向上に繋がっていきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の実践や結果やその時にケアに当たった職員による気づきなどを個々に記録を行い、職員が共有できるようにしている。大切なことは、申し送りノートケアの変更の周知に役立てている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけ病院や施設には行かなくて済むようホーム内で、訪問看護や訪問リハビリ、マッサージなどのサービスが受けられるよう支援を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 当ホームは、自然豊かな地に立地しており名所もあり、四季折々の豊かな景色を楽しめる。農作物の成長を見たり、地域に8ヶ所や33カ所参りのお堂があるのでお参りをすることや、歌や演奏踊りのボランティアを楽しみにされている方も居る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 契約時に、ご本人とご家族の意向を伺うようにしている。施設長が、医師なのでかかりつけ医になる事が多い。変更の場合は、医療情報の提供を必ず受けて引き続き適切な医療が受けれるように支援している。 (外部評価) 利用者や家族の希望により、入居前からのかかりつけ医に、家族の協力を得て通院できるよう支援している。また、協力医をかかりつけ医としている利用者もいる。協力医は代表者であるため1日に1～2回事業所を訪れ、利用者の体調を確認したり、利用者と一緒にレクリエーションを楽しんだりしている。契約している訪問看護ステーションの看護師もほぼ毎日訪問しており、体調管理に気を配っている。他科受診が必要な場合には、協力医が診察を行なったうえで速やかに紹介し、専門科を受診できるよう手配している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ご本人、ご家族の同意を元に、各自が必要な看護をすぐに受けられるように訪問看護ステーションと契約している。月に1回は、健康チェックを受けているが頻繁に訪問看護師が来るので、咳があったり食欲のことや皮膚の状態のことなど、ちょっとしたことでもすぐに看護職に相談をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、ホームでの暮らしぶりなどの情報や医療情報の提供を必ず行っている。お見舞いや家族様への連絡などで情報の把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所の契約時に必ず当ホームの指針の説明やこれまでの事例などを話し重度化や終末期対応の意識や希望を伺うようにしている。ホームでのターミナルケアありきでなく色々な道があることを伝えている。 (外部評価) 「看取り介護についての対応指針」を作成し、入居時に利用者や家族に説明している。事業所での看取りを希望されていても最終的には入院や帰宅に繋がる利用者もおり、段階に応じて途中で意向を変更できる旨も必ず伝えている。これまで事業所で数多くの看取りを経験している。管理者は職員に対し、「最期を迎える時ではなく、それまでのケアが大切である」と伝えている。終末期を迎えた利用者がある場合でも、職員が安心して他の利用者の介護ができるよう、代表者や管理者が協力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 対応のマニュアルがホーム内に掲示されている。ホーム内で意識レベルや症状別の初期対応の勉強会を行い急変や事故発生時に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害別の対応マニュアルを掲示している。避難訓練も行っている。近隣住民との話し合いを行い、いざという時の協力体制が出来ている。勉強会において、災害に対する意識付けを行い心構えなどを各職員は学んでいる。 (外部評価) 年2回、地域住民と合同で避難訓練を実施している。訓練では実際に利用者と一緒に地域の小学校の体育館へ避難したことがあったが、その際に段差が多いなどの課題が見つかり、さっそくスロープを設置してもらうなど対応をしてもらっている。防火デーには、消防団と一緒に訓練をしている。また、土砂崩れ等により道路が寸断され地域が孤立する可能性もあるため、水や食料などの備蓄品を用意している。火災に加え、行政では原発事故の対策も検討中で、今後協力していく予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご本人の尊厳や誇り、羞恥心や自尊心とは何かを考え配慮して気分よく生活ができるよう一人ひとりに合わせた言葉かけを行えている。 (外部評価) 職員は「利用者に恥ずかしい思いをさせない」ということを常に念頭において支援するよう努めている。声かけの内容はもちろんのこと、声の大きさにも配慮するよう心がけている。排泄や入浴の介助時には、必要以上に扉を開けたままにしない、見守りを最小限にとどめるなどの注意を払い、工夫した支援ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 生活の中で自己決定の場面を作り出すことを意識している。個々に応じた声のかけ方、引き出し方をしている。特に自己主張が苦手な方には気を配っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日課はそれほど気にせず、各利用者様のペースや希望その時の気分や体調に合わせた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着たい服を一緒に選んだり、季節に合わせた衣類の用意、ご家族様の支援でパーマをあてたり、ホーム内でのカットなどで支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も利用者様も一緒に食べている。食前の体操、調理の下準備や味見、味付け相談、後片付けなど一緒に行っている。誕生日には誕生者の希望の献立にしている。	
			(外部評価) 職員が1週間分のメニューを決め、ユニット毎に職員が調理している。店舗が遠いため食材を配達してもらっているが、時々買い物や精米に利用者と一緒に出かけることもある。入職時には不慣れだった男性職員も徐々に調理に慣れはじめ、現在は職員全員が順番にオープンキッチンで、利用者の様子を確認しながら調理をしている。利用者には下ごしらえ等のできることを手伝ってもらえるようお願いしている。利用者の好みの味付けを聞いたり、誕生日には食べたいものを提供したりするなど、会話を楽しみながら食事が楽しみになる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分摂取量は毎日把握している。栄養状態は、定期的に検査しており把握できている。必要があれば栄養補助の飲み物を利用している。個々の能力に対応して食器を変えたりトロミを付けるなどの支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 個々の能力に応じて、口腔内の清潔保持の支援や、口腔内の不調があれば歯科受診の支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 24時間排泄記録をしている。自立している人、誘導が必要な人、行きたがらない人、分からない人など個々の状態に合わせた介助を行っている。	
			(外部評価) 常時オムツを使用している利用者や紙パンツの利用者など様々であるが、どの利用者に対してもよく観察して、タイミングを見計らって声かけをしている。立位の取れる利用者には、トイレでの排泄支援をしており、利用者に合わせて、手すりの高さなどを調整する工夫をしている。利用者にトイレの場所が分かりやすいよう、「トイレ、便所」の表示をしている。利用者の意向で、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいるが、自力で排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々に排便の把握をしている。運動や水分量、繊維物の摂取、便を軟らかくする薬の利用で気持ちよく排便できるように支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 順番は決まっていないが重なる時は職員が間に入って調整したり個々の力に合わせた入浴方法、浴室や脱衣場の温度調節、個々に合わせた湯加減などで気持ちよく安全に入浴ができるよう支援している。	
			(外部評価) 個別浴槽にリフトを設置し、利用者の状態に合わせて2人体制で介助をするなど、安心安全に入浴できるよう支援している。利用者の希望に応じて、毎日入浴することも可能である。冬場など寒いため入浴を拒否される利用者には無理強いせず、声かけを工夫したり入浴できない場合には清拭等を行い清潔保持に努めている。浴室は車いすのまま出入りできるよう扉を外したり、脱衣場にはエアコンを取り付け、浴室と温度差を感じないような工夫をしている。のんびりと穏やかな気分になれるよう、基本的には職員と1対1で会話を楽しみながら入浴できるよう心がけている。男性職員が数名いるが、希望者には同性介助をするよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活習慣やその日の気分や体調を考え、好きな時にどこでも休息や安眠ができる支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 主治医や薬の担当者によって管理されている。変更や追加があれば申し送りノートに記録し、変化の確認を行っている。一人ひとりの能力に応じて対応し服薬の確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や好み、能力を把握しどんな役割が持てるのか考え支援を行っている。能力があっても嫌がったり遠慮される利用者様もいる。自分だけのおやつを持っている方もいる。ゲームや散歩などで楽しい時間を過ごせるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候によるが散歩は欠かさず行っている。日に何回もお参りをしたり、買い物や美容院に行ったりしている。季節に応じた外出も行っている。 (外部評価) 天候が良ければほぼ毎日、事業所周辺を散歩している。歩行できる利用者や車いすを使用する利用者など状況は様々であるが、職員と1対1で会話を楽しみながら散歩する習慣になっている。利用者の希望に応じて、名所となっている棚田の風景や季節の花を見に行けるよう支援している。また、買い物や玄米を精米に行く際には利用者と一緒に出かけるなど、外出する機会を日常的に作り出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人でお金を管理して買い物で使ったり、お賽銭で使ったりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて電話の取り次ぎの支援を行っている。手紙や贈物など郵便物を代わりに受取りご本人にお渡ししている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 花やホーム内の装飾などで季節感や温度や湿度、匂い、音など配慮、歩行者の妨げになる者の除去、消毒で気持ちよく安全に清潔に過ごせるような環境づくりをしている。 (外部評価) 事業所内は日当たりがよく、天窓からの光も差し込む開放的な空間になっており、利用者はリビングやダイニング、ソファコーナーなど思い思いの場所で過ごすことができる。利用者の家族に大工の方がおられ、建具の調整や網戸の取り付けなどの環境整備を依頼することが多い。室内に洗濯物が干せるようなスペースを新しく作るなど、快適に過ごすために日々工夫している。また、感染症予防のため、一日6回手すりやドアノブの消毒をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自分の決まった席があるがトラブルが多い。みんなの要望に合わせるのが難しい。ベンチやソファを置いてくつろぐ時間が持てるように支援をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたものを持ち込むように依頼している。個々の好みのもや季節の花や家族様の写真などを置いたりして居心地良く過ごせるように支援している。 (外部評価) 居室はベッドとチェスト、エアコンが備え付けとなっているほか、利用者は馴染みの家具等を持ち込むことができる。事業所側で用意しているが、最近は布団を持ち込む利用者が増えている。季節毎の衣替えは、基本的に面会時等に家族に依頼しているが、必要があれば事業所の倉庫で預かることも可能である。利用者の多くは、家族やペットの写真を飾っているほか、毎年誕生日に職員から送られる寄せ書きを壁に貼っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下やトイレに手すりを設置してホーム内に段差をなくしバリアフリーにしている。センター方式D1, 2（改良型）を活用して細かく分析しどの介助が必要なのか把握して能力を維持できるよう支援している。出来そうなことに関しては、利用者様の意向に沿って一緒に積極的に挑戦している。	